

JGS 関東 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会
第 20 回 議事録

■日 時：2021 年 12 月 1 日（水）14:00～16:20

■場 所：Web 会議（Zoom）

■出席者：桑原（パイルフォーラム）、青木（竹中）、加倉井（パイルフォーラム）、阿部（東京ソイル）、柏（国総研）、片山（東邦地下工機）、小坂井（MFR）、西（安藤ハザマ）、三反畑（安藤ハザマ）、古垣内（東急）、張（東急）、嶋田（大林）、森（熊谷）、福田（戸田）、長澤（清水）、栗本（清水）、原（西松）、伊藤（東亜）、小林（大成）、高岡（三井住友）、梶野（長谷工）、土屋（竹中）、宮本（東洋テクノ）、木谷（三谷セキサン）、田中（大洋基礎）、小川（旭化成）、細田（ジャパンパイル）、高田（不動テトラ）、有山（丸建興業）、野坂（八州建機）、媚山（新潟商事）、根岸（地盤試験所）、飯島（土木研究所）

欠席：____，記録：細田

■配布資料

20-0_既存杭撤去第 20 回議事次第_211125
20-1_第 19 回既存杭の撤去に関する研究委員会_議事録(案)_211025
20-2-1_手引き_表紙-前書き（タイトル案）_211011
20-2-2_手引き_1 章(会社委員会入)_211201
20-3-1_第 3 章_WG1_ガイドライン 3 章_20211129
20-3-2_第 7 章_WG1 分修正_211027
20-4-1_第 2 章 既存杭の調査_211201
20-4-2-2_第 4 章(WG2)_20211129
20-4-2-3_第 4 章(WG2)査読意見と対応_20211121
20-4-3_第 7 章_WG2 分修正_211007
20-4-4-1_付録 2(WG2)_20211129
20-4-4-2_付録 2(WG2)説明_20211128
20-4-4-3_付録 2(WG2)調査事例一覧_20211128
20-4-4-4_付録 2(WG2)調査事例概要集_20211129
20-5-1_WG3_ガイドライン 5.1 案_20211105 原
20-5-2_5.2 修正案_木谷 20211026
20-5-3_WG3_ガイドライン 5.3 案_20210929 宮本
20-5-4_WG3 ガイドライン 5.4 案_20211026 土屋
20-5-5_WG3_ガイドライン 6 章_20211117
20-5-6_WG2 査読結果 5 章 黄強調あり(WG3 対応)
20-5-7_WG2 査読結果 6 章 黄強調あり_210826(小林対応)
20-5-8_第 19 回(20210929)WG3 議事録(案)記録者：土屋
20-6-1_(18-2)手引き_8 章 残された課題_2100823
20-6-2_付録 1_アンケート結果_211025
20-7_出版に関する情報と基礎工企画案_211129

（注記）太字、アンダーラインの資料番号は、以下の議事に活用されたものを示す。

■議事

1. 前回議事録の確認等（記録：高田委員）→ 資料 20-1

第 19 回（10 月 11 日）の議事録（案）が確認され、承認された。

2. 出版に向けた進展状況と基礎工の企画案の相談 → 資料 20-7

青木幹事より出版に関する最近の状況の説明があった。また、桑原委員長より補足説明をいただいた。

- ・出版に関しては契約書類が必要である。今般の印刷・出版については総合土木研究所に依頼し、相談する。
- ・総合土木研究所に対して、12 月中に仮原稿をお渡しする予定である。その後の微調整等は発生するであろうが、種々検討のために原稿の全体像をお見せする必要があるとのこと。12 月 8 日を目途に原稿を纏める必要がある。
- ・出版物（冊子：テキスト）に関連して、地盤工学会関東支部主催の講習会を開催する。そのため、冊子は相当数の部数が見込めると考えられる。
- ・講習会の計画案は、2 月 2 日の全体委員会で説明するが、来年度前半には開催する予定であるので、講師の協力等をお願いしたいとのことであった。
- ・基礎工の特集号として「既存杭の撤去と新設杭の設計・施工」の企画案が示された。（その 1）既存杭の撤去・埋戻し、（その 2）埋戻し部と重なる新設杭の設計・施工の 2 編構成（2 回（月）に分ける）との計画である。
- ・基礎工への原稿対応に当たり、委員各位への執筆、執筆者紹介の協力依頼があった。
- ・執筆予定者を仮定しているが、各社内等で執筆の相談・依頼されることがあることを考慮し、名前を削除した資料をアップしていただく。
- ・これらは、当該委員会での我々の活動が業界内で周知されることにもなるので PR にもなる。好事例があれば積極的に執筆をお願いしたい。

3. 表紙、まえがき → 資料 20-2-1

改めて、冊子のタイトル「既存杭の撤去・埋戻し方法とその影響を受ける新設杭の設計と施工」の確認があった。（タイトルを手引き、ガイドライン等としない。）

4. 1 章 序論 → 資料 20-2-2

- ・「手引き」の用語が未だ残っているところがある。本手引きは、→ 本書は、で良い。
- ・用語について、エア攪拌（○）にて統一する。エアフロー攪拌（×）。
- ・委員の構成と執筆担当を明確にした。

5. 2 章 既存杭を考慮した新設杭の計画と既存杭及びその撤去埋戻し部に関する調査 → 資料 20-4-1

- ・2.1 のタイトルの変更と内容について再考する。

6. 3 章 既存杭の撤去・埋戻し方法の現状 → 資料 20-3-1

- ・表 3.4.4「既存杭撤去方法と埋戻し方法の組合せとその評価」において、直接引抜の②～⑤の評価を 1～3 として修正する。
- ・その他、3 章と 4 章は整合をとる。→ バックホウ（○）、油圧ショベル（×）など

7. 4 章 撤去後の埋戻し方法・埋戻し部の現状と施工上の留意点 → 資料 20-4-2-2

- ・4 章のタイトルは変更を行った。
- ・表 4.4.1 は、アンケート調査結果と学会発表論文を含めた件数（31 件）として改めて纏め直した。
- ・図 4.4.1 は変更（詳細過ぎるところを簡素化）し、一部を付録 2 の事例の冒頭に移動した。
- ・「4.5 ケーシング縁切引抜工法での埋戻し部の現状」の「(2) 埋戻し方法の適用性」のところに埋戻し材が土の場合の記述がある。「土を確実に埋戻すには、例えばオールケーシング破碎撤去工法において、……」としており、この内容を記載するポジションを再考すべきではないかとの意見があった。

8. 5章 既存杭に干渉する新設杭の施工上の留意点 → 資料 20-5-1～20-5-4

- ・ 5.1～5.4については、特に修正等はなし。

9. 6章 既存杭撤去孔に近接または重なる新設杭の設計上の留意事項 → 資料 20-5-5

- ・ 6.1の手前にて、注意書きを追記した。

10. 7章 既存杭撤去・埋戻しに関する残すべき情報 → 資料 20-3-2、資料 20-4-3

- ・ ①の既存杭引抜工事管理表には、ケーシングの項目があるが、②の既存杭引抜施工記録表にはケーシングの情報がない。杭径と杭頭深の間にこの項目を挿入する。
- ・ 7.1と7.2の再編集の纏めを行う必要がある。

11. 8章 おわりに → 資料 20-6-1

- ・ 特に修正等はなし。

12. 【付録-2】埋戻し部の調査事例 → 資料 20-4-4-1

- ・ 公開文献・論文について、各種学会（AIJ、JGS）、著者への掲載・引用許可の必要性や可否について確認する。

13. 今後の全体委員会のスケジュール確認

- ・ 次回：2月2日（水）14:00～17:00 原稿の校正・完成に伴う出版物の確認、講習会の計画
- ・ 次々回（最終回）：3月23日（水）14:00～17:00 運営等の調整（状況によっては中止）

以上